静岡県立高等学校の在り方に係るグランドデザイン（田方地区）

1　要旨

田方地区の県立高等学校の在り方について、地域協議会での協議を踏まえ、グランドデザインを策定した。

○スケジュール

時　期	内　容
令和７年　１月 21 日	第１回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
7 月 18 日	第２回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
10 月　6 日	第３回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
12 月 24 日	第４回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
令和８年　３月 24 日	**第５回県立高等学校の在り方に係る地域協議会（グランドデザインの検討）**

2　グランドデザインの概要

・自治体と連携した地域連携型探究学習と、先端産業や地元企業と連携した企業連携型探究学習を基盤とした、「地元マインド」と「グローバル・マインド」を育むための最適な方策を検討

(1) 目指す人物像

○地域を学び、日本や世界を知り、倫理観を持って地元や国内外で活躍する人

・地域を学び、地域を愛し、地域を創生する人

・自ら課題を発見し、答えのない問いに立ち向かうことができる人

・日本や世界を背負って立ち、グローバルな視点を持ち、地元や国内外で活躍する人

(2) 目指す学校像

・高度専門的な国際的人材や医療人材の育成を見据えた国際的コミュニケーション能力や医療分野の学びを展開する高校

・地域の特色を活かした観光(食を含む)や商業の学びを掛け合わせた教科横断的な学びを展開する高校

・ＤＸやＡＩをはじめとする先端科学からグローバル教育まで網羅する多様な学びを展開する高校

・最先端の農業と工業、食の学びを掛け合わせた実学的な学びを展開する高校

(3) 改編（再編整備）の方向性

・全日制において、令和 20 年度頃までに、４校程度の適正規模の公立高校へ段階的に改編

・地区内の配置バランスを踏まえ、１クラスとなった学校は分校とし、人口減少に応じた将来の再編も視野に入れる。

・校地の選定については、生徒の通学可能範囲等を考慮して適正に配置

①適正規模を下回る高校や政策的個別課題に対応する高校については、進学想定生徒数や校地等を検討し、速やかに個別協議を行い再編する。

②上記以外の高校については、適正規模を維持しているうちに、具体的構想を検討し、生徒数の減少状況等を踏まえ、速やかに必要な再編に着手する。

(4) 今後の対応

各学校におけるグランドデザインの具現化については、県と各市町、学校との詳細な協議を行った上で決定する。

田方地区〈県立高校〉のグランドデザイン

【課題認識・全県】

■少子化が進行する中での高校の改革（配置と規模のあり方など）

■変化の激しい時代を生き抜く力の育成

【課題認識・田方地域】

■令和 20 年度までに生徒数は約 4 割減少、他地区への生徒流出も増加
■県立高校の小規模化が進展、今後更に急速な生徒数の減少により規模が縮小
■東部地域における医療人材の不足
■新たな産業の育成、若者層を地域産業の担い手として取り込むことが必要

【高校改革の基本認識・全県】

■行ける学校から行きたい学校へ、画一から多様へ（学びの変革）
■地域・実社会と共にある学校（開かれた学校づくり）
■時代の変化を踏まえた教育基盤（学校の配置・規模等）

【高校改革の基本認識・田方地域】

■学びの方向性：「地元マインド」と「グローバル・マインド」を育む
■基盤となる２つの学習：「地域連携型探究学習」と「企業連携型探究学習」の学び
■「地元マインド」と「グローバル・マインド」を育むための基盤となる、学校規模、専門的な学科やコース等の設置、充実した施設・設備は不可欠

【目指す人物像】

○地域を学び、日本や世界を知り、倫理観を持って地元や国内外で活躍する人

- 地域を学び、地域を愛し、地域を創生する人
- 自ら課題を発見し、答えのない問いに立ち向かうことができる人
- 日本や世界を背負って立ち、グローバルな視点を持ち、地元や国内外で活躍する人

【求められる高校の在り方】

- 高度専門的な国際的人材や医療人材の育成を見据えた国際的コミュニケーション能力や医療分野の学びを展開する高校
- 地域の特色を活かした観光(食を含む)や商業の学びを掛け合わせた教科横断的な学びを展開する高校
- ＤＸやＡＩをはじめとする先端科学からグローバル教育まで網羅する多様な学びを展開する高校
- 最先端の農業と工業、食の学びを掛け合わせた実学的な学びを展開する高校

【具現化のための方策】

【学びの変革の在り方】

■生徒の選択肢が広がる多様な学びの実践

- 理系メディカル系、農業系、観光系、商業系、工業系の５つの類型を柱とした学びの掛け合わせ
- ＤＸやＡＩをはじめとする先端科学の学びの導入
- 変化の激しい現代を生き抜くためのアントレプレナーシップ教育の実践

■基盤となる２つの「連携型探究学習」の実践

- 地元自治体等との連携による地域連携型の探究的な学び
- 先端産業や地元企業との連携による企業連携型の探究的な学び

【地域との連携の在り方】

■産学官の連携による、専門性の高い学びの提供

- 地元の産業と企業に関する知識や理解を深めるとともに、「グローバル・マインド」の育成を推進
- 地域、企業、自治体との連携等を通じた、地域への理解や「地元マインド」を育む教育の推進
- 高い技術力や研究開発力を持つ企業等と連携した実践的・体験的なカリキュラムの構築
- 地区外へ進学しても、地元に思いを寄せ、将来的に田方地区に貢献できる人材の育成

【教育基盤の在り方】

■生徒や社会のニーズに応じた質の高い多様な学び
■生徒の可能性を最大限に引き出す良好な教育環境
- 多様な学習選択や豊かな教育活動の実現に向けた適正規模(１学年６～８学級)の確保

■改編（再編整備）の方向性
- 全日制において、令和 20 年度頃までに、４校程度の適正規模の公立高校へ段階的に改編
- 地区内の配置バランスを踏まえ、１クラスとなった学校は分校とし、人口減少に応じた将来の再編も視野に入れる
- 校地の選定については、生徒の通学可能範囲等を考慮して適正に配置

田方地区〈県立高校〉のグランドデザイン

イメージ

目指す人物像

地域を学び、日本や世界を知り、
倫理観を持って地元や国内外で活躍する人

・地域を学び、地域を愛し、地域を創生する人
・自ら課題を発見し、答えのない問いに立ち向かうことができる人
・日本や世界を背負って立ち、グローバルな視点を持ち、地元や国内外で活躍する人

学びの方向性

「地元マインド」と「グローバル・マインド」を育む

2つのマインドを育成する相互補完によって生じる効果は無限大

グローバル・マインドの育成
異文化理解と協働を促進する姿勢の育成

地元マインドの育成
地域社会をよりよくする力を養う

基盤となる2つの学習
「地域連携型探究学習」・「企業連携型探究学習」

沼津地区
生徒数減少を見据えた計画的な体制整備

北駿地区
新構想

小山
新構想

単位制・3部制の定時制

普通科と理数科の学び
（高度専門的な国際的人材や医療人材の育成）

普通科での多様な学び
（DXやAI等の先端科学からグローバル教育まで）

普通科と商業科の学び
（観光ビジネス（食を含む）、地域戦略論等を重視した学びの実践）

農業科や工業科の学び
（最先端の農業×工業、食等の実学的な学びの充実）

＜改編（再編整備）の方向性＞

＊全日制において、生徒の学習ニーズに合わせた幅広い学びや、専門性の高い学びを実現するため、令和２０年度頃までに、４校程度の適正規模の公立高校へ段階的に改編
＊地区内の配置バランスを踏まえ、１クラスとなった学校は分校とし、人口減少に応じた将来の再編も視野に入れる
＊校地の選定については、生徒の通学可能範囲等を考慮して適正に配置